

いわき市教育委員会

いしずえ

研修だより 第16号

平成28年3月7日

研修だより

礎

発行所
いわき市教育委員会

発行責任者
教育長 吉田 尚



「学び続ける教員を」

いわき市総合教育センター

所長 鈴木 和美

「和美先生、一人でやって限界感じねえ？俺たち研究会をつくったんだ。今度来てみない。」今は亡き友人の言葉でした。この言葉で私の教師人生の指針が決まったのかも知れません。それは昭和63年の冬、福島市市民会館大ホールでのことでした。

昨年、総合教育センターが主催した『教育実践発表大会』では次のような話をさせていただきました。それは、「学校文化が無くなったわけではないものの、センターでの講座や研修について、継続して研修していきたいという要望がある」というものです。基本的には、研修は学習と同じように個人でも深められるものだと思います。しかし、「センターの研修だけでは満足できない」「学校では、研修する時間がない」という声も多く聞かれるために、自主的研究団体等に研修を継続していただけるような場を確保していただきたく、センターとのコラボを提案しました。それが今年度から始まった「教師力 up セミナー」でした。

折しも昨年12月に中央教育審議会より、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」の答申が公表されました。具体的には、改革の方向性として、教員の継続的な研修の推進の中に「近年の大量退職、大量採用の流れの影響から、必ずしも年齢構成や経験年数の均衡がとれている学校ばかりとはいえず、効率的・効果的な校内研修の実施に支障を来す場合があることも想定

されることから、必要に応じ、各教育委員会が域内において様々な年齢や経験を持つ教員同士の学びの機会を提供することや教員同士の学び合いのネットワークを構築していくことが望まれる。また、教員の学びの機会が可能な限り得られるよう、校長等が配慮するとともに、そうした体制を整えていくことが必要である。(要約)」とあります。

いわき市の教員の年齢構成も全国と同様の状態にあり、これからまさに大量退職、大量採用の流れの真っ直中に入っていきます。若手教員の指導力向上は喫緊の課題であり、その若手教員を育成する立場にあるミドルリーダーの育成も同様であると考えます。そのためには、学校、教育センター、自主的研究団体等において「研修する場」をそれぞれに確保することで、教員の指導力向上を図っていければと考えています。

私は、23年前から市内で勤務するようになりました。それと同時に自主的研究団体を設立させていただきました。その取り組みの中で「個人的な学びの限界を乗り越える機会を得ること」と、「人より半歩進んでいる人は、その半歩分で得たものを必要としている人に伝えること」が出来れば互いに高め合う研修になるのではないかと感じたのです。

今後も、『学び続ける教員を』を肝に銘じて、教育の質を高めるために何が出来るかを考え、実践していきたいと思っています。

平成27年度 いわき市総合教育センター調査研究委員会 調 査 研 究 報 告

1 研究の概要

調査研究委員会では、平成26、27年度の2年間をかけて日々の授業改善や生徒指導、特別支援教育の充実をめざし、調査研究を重ねてきました。この間、市内の優れた授業の取材などをもとに指導のあり方をまとめ、日常の指導に役立つ資料の作成に取り組んできました。今回その成果をDVD資料にまとめ、各校に配布いたします。また、特別支援教育につきましては、総合教育センターホームページに掲載いたします。市内の先生方が授業や校内研修等で本資料を有効活用し、指導力の向上に役立てていただければ幸いです。

2 研究のねらいと視点

学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の展開

- ・ 基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習指導のあり方
- ・ 各教科における言語活動を取り入れた授業の実践
- ・ その他、教科の本質を踏まえた授業など

3 資料の活用

- (1) 調査研究の成果を電子媒体（DVD）に整理・編集し、市内小中学校へ配布する。
- (2) 特別支援教育については、総合教育センターホームページに掲載し、活用できるようにする。
- (3) 活用の利便性を図るため、案内用リーフレットを作成し、各校に配布する。

国 語 部 会 ～書く力を付けよう～

1 ねらい

自分の考えを構築していく方法の一つとして、書く力は大切です。書く力を付けたい。しかし準備が大変。書けない生徒にどうすればよいのか。

ここでは楽しく、手軽に書く力を身に付けさせるための方法を提案します。

2 内 容

- 小1・2 (観察文) もこちゃんなにしてる？
- 小3 (創作文) 君も直木賞！
- 小4 (説明文) 比べてみたら・・・
- 小5 (意見文・資料活用)
グラフに隠された真実
- 小6 (意見文・予想される反論)
へりくつではありません
- 中1 (鑑賞文) このCDを売り込め！
- 中3 (批評文) きのかVSたけのこ

3 活用と効果

DVDの内容を確認、活用を考える！

この資料を「どこで」「どのように」使うのか、児童生徒に付けさせたい力を明確にして、授業を組み立てる。

「書きたい」「楽しい」と思わせる

「書き方」を教える

「書く力」が付く

「書きたい」「楽しい」

算数・数学部会

～子どもの「かく」力を伸ばす～

1 ねらい

全国学力・学習状況調査における「B問題」正答率の向上がいわき市の学力向上の課題です。

その解決策として、子どもの思考力・表現力の育成は不可欠であると考えます。

今回は、表現力の中でも、子どもたちの「かく（書・描）」力を伸ばすという視点で算数・数学の授業や教科書を見直し、「どこ（どの学年のどの単元）」で「なに」をかく指導をすればよいのか整理し、先生方が迷わずに「かく」ことに関する指導をするための資料を作成しました。

2 内容

(1) 「かく」力を伸ばす4つのスキル

子どもの「かく」力を伸ばすためスキルを4つに分類して、段階を踏んで「かく」力を伸ばすことをやりやすくした。

(2) 教科書からの洗い出し

小1から中3までの教科書にある「かく」

ことに関する内容を洗い出して表に整理し各学年ごとの「かく」内容や学年間の系統と指導のポイントを見やすく示した。

(3) 授業実践例

授業のどの場面でのように「かく」ことを指導するのか実践した指導案を示した。

(4) 資料

参考資料として小中学校で学習する公式をまとめたものと市内の小中学校で活用されている「おたすけシート」を掲載した。

3 活用と効果

- 「教科書からの洗い出し表」を使って「かく」ことに関する指導内容とタイミングをつかむ。
- 学年や子どもの段階に応じて「4つのスキル」の中のどれを身に付けさせるか検討し、授業や家庭学習などで取り組ませる。
- 授業実践例や板書例から具体的な学習活動や発問・指示などをイメージする。
- 「公式集（小6～中3）」や「おたすけシート」を準備し、子どもの手元に置き、できるだけ見る機会をつくる。

社会部会

～小中4年間を見通した歴史学習へのいざない～

1 ねらい

26年度実施のアンケートより、先生方の課題意識として、次のことが明らかになりました。

①小・中学校それぞれの学習内容が把握できていない。

②地域素材の活用が難しい。授業のどこでどう活用すればよいか分からない。

そこで、市内全校に配付されている「みんなで学ぼういわきの歴史」を地域の共通教材として、本研究を進めました。

2 内容

(1) 歴史的分野「小・中学校指導内容一覧」の作成

(2) いわき市地域資料「みんなで学ぼういわきの歴史」の活用

① 提示資料「デジタル版」の作成

② 「授業補充資料」の作成

3 活用と効果

(1) については、①小学校6年教科書での単元名・学習内容・重要語句②中学校歴史教科書での小単元名・学習内容・重要語句③「みんなで学ぼういわきの歴史」の各内容の該当箇所を記載しました。

(2) については、各ページのPDF化・各ページの主たる写真資料（市内各地区の遺跡等）の画像化・リンクの設定（拡大提示可能）を進め、各教室で提示資料として大画面で活用できるようにしました。又、補充資料を作成し、市内各地区の遺跡について調べ、児童生徒への補助説明を掲載しました。

この研究によって「小・中学校での歴史の学習がどうつながっていくのか」が確認でき、より効果的な学習計画を構想することができます。また「みんなで学ぼういわきの歴史」の関連を示すことで「地域教材を歴史のどの学習内容と関連させ、指導することができるのか」を確認できます。

社会科で「地域教材の活用」を推進し、児童生徒に地域に対する誇りや愛情を育ませ、主体的な社会科の学びを充実させていきたいと思います。

理 科 部 会

～困った時のヒント集 Q&A～

1 ねらい

児童生徒に科学的な見方や考え方を身に付けさせるためには、問題解決の流れに沿った授業をしていくことが大切だと考えます。そんな授業をしたいと思った時に参考にさせていただきたく、今回の事例集を作成しました。

2 内 容

困った時のヒント集 Q&A

- Q 1 理科の学習はどのように進めればいいのか？
- Q 2 問題（課題）はどんなふうにつくったらいいのか？
- Q 3 観察・実験の結果をどう整理したらいいのか？
- Q 4 理科の話合いはどのようにすればいいのか？
- Q 5 理科室や準備室の備品はどう管理するのか？
- Q 6 実地体験ができない時や実物が入手困難な時はどうするのか？
- Q 7 正しい実験結果を得るためのポイントは？
- Q 8 かんたん・楽しい理科実験にするには？

英 語 部 会

～ 生徒も教師も Active Learning ～

1 ねらい

既存の知識に新たな知識を組み合わせ、それらを活用しながら問題を解決していく思考力、必要な情報や問題解決のための方向性や方法を選択し結論を導くための判断力、伝える相手や状況に応じて自己を発信するための表現力の育成にと、各先生方は努力されているところだと思います。

さらに、2020年を見据えグローバル化に対応した英語教育改革が進められ、我々英語教師に期待されるところは大きく、日々自分の授業の在り方を確認したいという先生方がいるのではないのでしょうか。そのような先生方の一助、また授業改善のヒントとなることをねらいとし、市内をはじめ広く活躍する先生方からご協力をいただきDVDを作成しました。

2 内 容

- (1) 授業で大切にしていることについて
 - ・ 英語教師の専門性を問う授業づくり

3 活用と効果

小学校編では、中学年と高学年から事例をあげて具体的に示してあります。問題解決の8ステップを児童の言葉を入れてイメージしやすく構成しました。また、この8ステップのうち、問題設定、結果の整理、予想・考察での話合いについて具体例を掲載しました。問題設定が児童の気付きからできれば、その後の学習も児童が主体的に取り組みます。また、実験結果を比較しやすく整理すれば、その後の考察での話合いが充実します。そのほか、実験がうまくいくちょっとしたコツや備品の管理などについても参考にさせていただければと思います。

中学校編では、課題設定の場面や話合いの場面で、どのようなことに気を付けて話合いをさせればいいのか、話合いにはどのような方法があるのかなど、課題の設定のしかたや話合いのしかた、教育機器の活用や実験のポイントについて掲載しました。さらに、iPad など、教育機器の活用方法についても掲載しましたので、是非今後の授業の中でご活用ください。

・ 授業構想の時の4つの「シヨン」

(2) 実践資料

- ・ 「書くこと」の指導の充実について
- ・ 英語を書かせるための指導と実践例

(3) 授業の実際【動画】

- ・ 新出文法の導入時における題材の選び方
- ・ Unitのまとめにおける授業構成の工夫

3 活用と効果

「授業で大切にしていることについて」「実践資料」においては、日々の授業のあり方や方向性について確認できるとともに、授業改善に向け多くのヒントが得られます。また、実践ワークシートを掲載させていただきましたので、各校の実態に応じ活用が可能です。

「授業の実際」【動画】では、生徒たちが意欲的に参加する様々な学習活動や指導方法・教材の工夫を知ることができます。ICT機器の効果的な使い方も大変参考になりますが、ICT機器の操作が不得手な方でも、カードや別な方法で代用することが可能な学習活動を紹介しています。ぜひご活用ください。

生徒指導部会

～生徒指導日課表～

1 ねらい

生徒指導上の課題は、いじめや不登校、暴言・暴力行為など多岐にわたり、複雑化・多様化・低年齢化しています。このような中、学校現場では未然防止や問題解決に向けた教職員の努力が日々続いています。本部会では、特に未然防止に注目し、これを推進する「成長を促す生徒指導」、「予防的生徒指導」（平成22年文部科学省「生徒指導提要」「生徒指導の3つの目的」より）の具体的な指導例等を提案します。

2 内容

(1) 「成長を促す生徒指導」及び「予防的生徒指導」の指導事項例

これまで本部会が提案してきた「生徒指導の充実を図るための4観点」から「成長を促す生徒指導」及び「予防的生徒指導」の指導事項例を提案します。

(2) 生徒指導日課表「小学校編」「中学校編」

指導事項例に基づいた具体的な指導例を、日課表形式で提案します。日課表（学校生活の一日の流れ）に沿いながら、日常的な指導場面を設定します。

3 活用と効果

これまでも、本部会では学校現場で活用していただくための生徒指導資料を提案してきました。今回は多忙な先生方に手軽に活用していただきたいとの思いから、「イラストと吹き出しの生徒指導資料」の作成をめざします。また、経験の浅い先生方にも活用していただけるように、一日の流れに沿った指導や支援を簡潔な言葉かけで表現します。

今回は提案できませんでしたが、生徒指導のもう一つの目的「課題解決的生徒指導」の場合も「成長を促す」「予防する」視点は大切だと感じています。

提案したものは、全て一例です。先生方の日々の指導の中で児童生徒の実態に応じ、よりよい形でご活用ください。

特別支援部会

～特別支援学級のアイディアを共有～

1 ねらい

毎年、特別支援学級を担任される先生方から、次の悩みが挙げられています。

- ① 経験が少なく、学級経営の見通しがもてない
 - ② どのように授業を進めていけばよいか不安
- これらの悩みを解決するために、「学級経営の1年間の見通しをもつ」「教材教具、資料等の共有化」を図ることをテーマに研修を進めてきました。

2 内容

(1) 特別支援学級担任年間スケジュールの作成

- 1年間の見通しを持って仕事を進めるための情報の提供
- 担任や児童生徒のタイプ別にスケジュール情報を細分化
- 職務に必要なシートや各校のアイディアにリンクし、活用できるようなシステム

(2) 教材、教具、学習プリント等の共有化

- 教科や領域、教科等を合わせた指導ごとに資料を分類
- 編集して使用できる学習プリント等の掲載
- 資料検索の際には、一目で概要が分かるように掲載

3 活用と効果

「年間スケジュール」、「教材、学習プリント等」の資料は、すべて総合教育センターのホームページに掲載します。「情報や資料が欲しい」と思ったら、ぜひご覧いただき、校務や学級経営、学習指導にご活用ください。特に、「教材、学習プリント等」の資料は、通常学級の先生方にも有効に使っていただけるものがたくさんあります。通常学級と特別支援学級の枠にとらわれずに学校全体で情報を検索していただくことによって、相互の交流がより活性化され、児童生徒の学習成果が上がっていくことを期待しています。

また、シートや学習プリント等の資料検索の際には、一目で概要が分かるようになっていて、「いつでも、誰でも、簡単に」ダウンロードが可能になっています。

研 修 で 学 ん だ こ と を 子 ど も に !

いわき市総合教育センターでは、日常の教育実践に直結した研修及び本市における教育課題解決に資する研修を行っています。研修を通して学んだことが、子どもたちの姿に現れることを目標としています。各先生方が、今年度の研修でどのようなことを学び、実践に生かしているのかをいくつかご紹介します。

『ミドルリーダー養成研修』を受講して

平第二中学校 岩本 和典先生

今年度の研修を終え、本研修の柱は「授業づくり、人づくり、組織づくり」の3つではなかったかと思います。その中で私が学んだポイントは、

- ① Universal Design for Learning (UDL)の視点
- ②学ぶことが好きになる子どもを育てること
- ③コーチングによる関係性の向上と組織の活性化でした。

研修後に、現場に戻りいろいろ実践してみたものの、実際にはうまく成果が出なかったものばかりでした。例えば、「学ぶことが好きになる子どもを育てること」についてです。文字を書くことが苦手な生徒にとっては、板書をノートに写すことさえ苦痛になることがあります。そこで、解決策の1つとして iPad で板書の写真を撮り、後でノートに記録するという方法を取り入れました。これは、確かに視覚的な振り返りの方法としては効果的でしたが、生徒自身の「学びの楽しさ」にはあまりつながりませんでした。どうすれば、生徒たちに学びの楽しさを伝え、学びの連続性が生まれていくのか。教具の選択、授業の雰囲気づくり、いろいろな角度から自分の授業を常に検討していく必要があります。

一方で、新たな発見もありました。特にコーチングの手法は、漠然とした課題意識を明確にし、その解決策と労力について予測・判断できるということがわかりました。

今後は、全国的な動向や組織的な活動にも視野を広げ、明確な課題をもって子どもたちと向き合っていきたいと思っています。

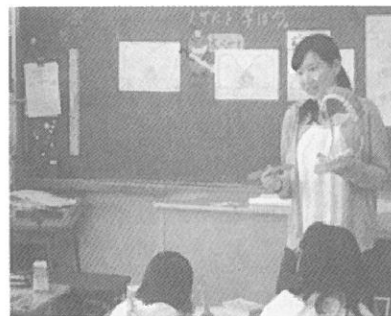


『新規採用養護教諭研修』を受講して

永崎小学校 鈴木 麻衣子先生

「みんなを笑顔にするのが私の役目だよ。」と言っていた中学校時代の養護教諭の姿が忘れられず、私も同じ道をめざし、ようやく今年度養護教諭としての一步を踏み出しました。思い描く養護教諭にはほど遠いですが、子どもたちの成長する姿に喜びや勇気をもらいながら日々学びを深めています。

新規採用養護教諭研修は、校内では40時間の基本研修、20時間の専門研修、校外では先輩校研修などがあり、とても充実した研修を行うことができました。研修の中で特に実感したことは、「児童一人一人と向き合うこと」の大切さや難しさです。学習面や生活面に関することなどすべての指導において、子どもたち一人一人に理解させるには、個人差があるため、同じ言葉かけでは通じないこと



もあります。その子に応じた言葉かけや指導ができるように、日常の中で積極的に児童とかかわり、個々をよく理解することや、他の教職員

との情報共有を通して実態把握に努めることが大切であると考えます。

また、児童に考えさせたり教えたりする場をつくることが大切であることを、研修から学びました。怪我をして来室した児童に、適切な救急処置や不安を取り除くような声かけだけでなく、再び起こらないように考えさせたり、危険なことに対してはきちんと指導をしたりすることを、これからも心がけていきたいと思っています。

今後も、常に子どもたちと視座を同じくし、悩みや思いを受けとめ、子どもたちを笑顔にできる教師でありたいです。

『学校組織マネジメント講座』を受講して
植田東中学校 鈴木 隆弘先生

教師と生徒、教員同士のかかわり合いの中で、答えを指導するティーチング、解決策を提案するコンサルティング、望ましくない部分を探すカウンセリングなど、様々な関係がありますが、今回、大野宏先生の講義、演習で学んだコーチングは、まさに現在の我々に求められる知識・技能だと感じました。コーチングに必要なスキルでは、カウンセリングと共通する部分もありますが、最終的な答えのありかはクライアント側にあり、人が本来もっている能力や可能性を最大限に発揮できるように、いかに引き出すかというところが一番の違いです。

会場は、普段の研修と異なり、始めから机がなく、今日は活動が中心かな？と期待するものがありました。実際の演習では、かかわり方の3つの心構えとして「関心をもつ」「ほめる」「話を聴く」、かかわり方の3つのスキルとして「アドバイス」「傾聴する」「魅力を引き出す」というキーワードが提示され、小グループでのワークを行いました。活動を通して、普段の職場の中で自分では意識しているつもりでも、褒めるタイミング、傾聴するときの視線やあいづちなど、わずかな違いで相手の感じ方が変わることを実感しました。



ミドルリーダー研修の一環として、本講座を受講しましたが、その後の自分自身、大きく変わったような気がします。研修の目的である、若手教員の育成にとどまらず、生徒、保護者とのかかわりを始め、様々な場面で、意識をしながら話を聴いたり、話しかけたりする習慣ができました。

社会環境の変化により、子ども、保護者も変わってきています。教員に求められるものも増え、我々も常に学ぶ姿勢が必要だと改めて感じました。

『授業改善講座』を受講して
平第一小学校 大石 真弓先生

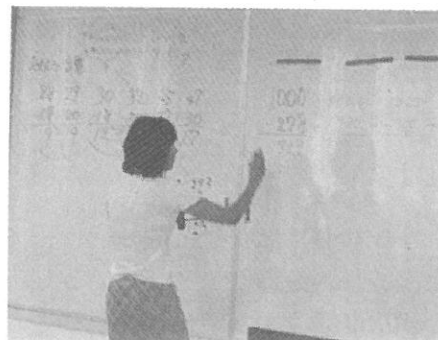
細水先生の講義は、『私たち教師が、どんな授業を、子どもたちのどんな姿を想像して行うかで、子どもが変わる』という内容のお話でした。言葉にすると当たり前の事ですが、そうするための細水先生のテクニックを模擬授業とともに教えていただいたことは、とても有意義な時間でした。



「この列の子たちは反応がいいね」などの言葉で子どもたちを認め、教師の価値観や授業の方向性を伝えることは、一人一人をきちんと捉えることでもあること、そして、それが全ての授業の根底になっていることを、自分が子ども役となって模擬授業を受けたことで改めて実感できました。教師の教材開発や教材研究で、子どもたちはできる楽しさを味わい、考え、結果として思考力を高めることができるという流れは、まさに、アクティブ・ラーニングを体得できた講座でした。

また、細水先生の講義の中で、私が一番「目からうろこが落ちた」ことは、“上位の子どもを引き上げることで、クラス全体が高まる”というお話でした。学級の平均点を上げるには下位を伸ばすべき、という考えが先行し、できない子ばかりに目がいつてしまい、下位の子どもたちを引き上げようとすることで自己満足していた自分を大いに反省し、授業を改善するきっかけとなりました。

細水先生のお話をお聞きしていると、算数だけでなく他の教科にも通じること、そして学級づくりに通じることたくさんありました。日々の授業づく



りを楽しみながら、授業の改善をしっかりとしていかなければならないと、改めて誓った、とても有意義な講義でした。

ひろば

～平成28年度 研修の計画～

平成28年度の研修では、基本研修Ⅰにおいて「教職2年次研修」「教職3年次研修」を新設するなど、経験年数やライフステージに応じたキャリアアップをさらに重視した計画を立てました。主な研修、講座の新設及び内容の変更は以下のとおりです。（詳細は、平成28年度研修計画をご覧ください）

基本研修Ⅰ

- 初任者研修・新規採用養護教諭研修・新規採用学校栄養職員研修、経験者研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ミドルリーダー養成研修、養護教諭経験者研修Ⅰ・Ⅱは通常どおり実施します。
- H27年度に初任者研修を修了した教諭を対象に、教職2年次研修を新設します。校内研修30時間、校外研修3日間を行います。
- 若手教員育成の視点から、採用後2年を経過した教諭を対象に、教職3年次研修を新設します。校内における研修1日、校外における研修を1日行いますが、校内における研修は、指導主事の要請訪問による指導を行います。
- 学校栄養職員経験者研修Ⅱ、養護教諭経験者研修Ⅲは、隔年実施のため、H27・28年度該当者について実施します。
- 学校栄養職員経験者研修Ⅰ・Ⅲは隔年実施のため、H28年度は実施せず、H29年度に実施します。

基本研修Ⅱ（職能研修）

○「総合的な学習担当研修①・②」

スチューデント・シティ、ファイナンス・パークの実施時期により前後期に分け、①では前期実施校、②では後期実施校の小学5年、中学2年担当の教員を対象に、体験学習プログラムの進め方を研修します。

○「生徒指導主事研修①②」

H28年度は生徒指導主事研修②において、生徒指導主事の先生方を対象に、ネットにかかわるトラブルから児童生徒を守るための研修を行います。

専門研修

○ 教育課題研修

・「学校組織マネジメント講座」

学校組織における若手の育成や組織の活性化に向けた実践的指導力と資質の向上を目的として実施します。H28年度は「会議・打合わせ等の進め方」がテーマです。ミドルリーダー養成研修該当者は悉皆となります。

・「図書館教育講座」

学校司書を有効に活用し、図書館教育の効果的な進め方について学ぶ講座です。H28年度も赤木かん子氏による講義を予定しています。

○ 教科研修

・「授業力向上講座Ⅰ・Ⅱ（基礎・実践）」

夏季休業中を中心としながら各教科実施します。ただし、中学校英語は、文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、英語教育推進リーダー伝達講習を連続2日間行います。この講習は4年間で全ての中学校英語教諭が受講する必要があります。H28年度の対象者は後日お知らせします。

・「授業力向上講座Ⅲ（応用）」

思考力・判断力・表現を高める授業づくりに向けて、筑波大学附属小・中学校の先生方の実践に基づいた講義・演習を実施します。小・中学校での飛び込み授業をとおした研修も計画しています。H28年度の実施教科は次のとおりです。
小学校：国語 算数 理科 社会 音楽 体育 外国語活動

中学校：国語 数学 理科 社会 英語

○ 生徒指導研修

・「児童生徒理解教育実践講座」

教育相談やグループエンカウンターを生かした学級づくり、Q-Uテストなどを活用した児童生徒理解に基づく学級経営の実現について講義・演習を行います。

○ 情報教育研修

・「ICT活用講座④」

スカイメニュー及びICT機器の活用」（新設）

スカイメニュー始めICT機器の活用に関する研修を行い、教育用ソフトウェアの活用等について技能を高める研修です。

教員免許状更新講習

- 夏季休業中に行う講座の中から14講座（教科研修9講座、教育課題研修1講座、特別支援教育研修1講座、生徒指導研修3講座）を選択講習として開設します。